

授業科目名 (英文名)	教育方法・技術論 (Educational Method and Teaching Skill)	科目区分 対象学生	
単位数	2.00	開講年次・ 学期	2 年次・前期集中
担当教員	石田 潤	所属	非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>教員としての資質・能力を身に付けるために必要な、教育の方法・技術（情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を含む）について説明することが講義目的である。</p> <p>教育の方法・技術の基礎となる認知過程についての知識と、教育実践への活用法、教育の方法・技術の実践モデルである教授 - 学習法の代表的なものについての知識、その他、講義内容に記載した諸々の事柄について、内容を十分に理解し、文章で述べるができるようになることが到達目標である。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容</p> <p>教育の方法・技術の基礎となる記憶、知識・技能、思考などの認知過程についての理論と実践への活用法について説明する。次に、教育の方法・技術の実践モデルである教授 - 学習法の代表的なものを取り上げて、それぞれの長所・短所にも触れながら説明を行い、教授 - 学習法の長所となる部分を活かした主体的・対話的で深い学びを実現する方法について論じる。さらに、授業実践で必要となる授業の基礎的技術や学習指導案の構成法、学習評価法、授業における情報機器の活用や情報活用能力の育成の方法なども扱う。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の方法・技術の概要と構成 2. 教育方法の基礎的理論と実践への活用（1）（記憶について） 3. 教育方法の基礎的理論と実践への活用（2）（知識・技能について） 4. 教育方法の基礎的理論と実践への活用（3）（思考について） 5. 教授 - 学習法（1）（プログラム学習，完全習得学習） 6. 教授 - 学習法（2）（徒弟制方式） 7. 教授 - 学習法（3）（講義法，有意味受容学習） 8. 教授 - 学習法（4）（問答法，討議法） 9. 教授 - 学習法（5）（発見学習，探究学習） 10. 教授 - 学習法（6）（主体的・対話的で深い学びの実現方法） 11. 授業実践の構成要件と基礎的技術 12. 学習指導案の構成内容と作成方法 13. 学習評価の考え方と方法 14. 情報機器を活用した教材等の作成・提示の方法 15. 情報活用能力の育成方法 （定期試験は実施しない。） （全ての授業を神戸商科キャンパスから発信し受信講義室で受講してもらう従前型の遠隔授業で実施する予定である。） 		
テキスト	使用しない。		
参考文献	<p>小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、『教育の方法と技術』（田中俊也・編著、ナカニシヤ出版）、その他授業内容の理解に役立つ補助資料を事前に配布する。</p>		
成績評価の基準・方法	<p>（成績評価の基準）</p> <p>到達目標に挙げた事柄についての知識内容を理解し、それらを文章で十分に述べるができる者に単位を授与する。述べられた文章内容の十分さ（分量の多さと内容の充実度）の程度に応じて成績を与える。</p> <p>（成績評価の方法）</p> <p>授業期間中、講義内容を文章で述べる課題レポートを3回課し、各回の出来栄を総合（各回33%）して評価を行う。</p>		
履修上の注意・履修要件	<p>授業で扱う知識や方法はいずれも授業実践の基礎となるものなので、そのことを頭においてしっかり学んでほしい。</p>		

	<p>新型コロナウイルス感染症に伴う特例措置に基づく遠隔授業</p> <p>当授業は、全ての授業を神戸商科キャンパスから発信し受信講義室で受講してもらう従前型の遠隔授業で実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、自宅で受講してもらうオンライン授業になる可能性があります。オンライン授業の場合は自宅で受講できる通信環境（PC・タブレット等の端末やWi-Fi環境）が必要となります。いずれの授業形態になるかについての決定・連絡は履修登録後になります。</p>
実践的教育	該当しない。
備考	上記の授業計画は当シラバス作成時点でのものであり、授業の実施に際しては、受講者の理解度などを考慮しながら進めていくので、各授業回と講義内容との対応は必ずしも授業計画どおりになるとは限らない。